

そこが聞きたい!!

一般質問

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です。)



『清水冠者物語』、狂言「入間川」をもっとPRしては

福田 正 (改進黨)



録画配信の
2次元コード

◆中世期、当地狭山市(武蔵国入間郡)は政治、文化、軍事的に重要な拠点であった

文化財にゆかりのある『清水冠者物語』の源義高や伝統芸能である狂言「入間川」について、多くの市民に知ってもらおう方策は。

生涯学習部長 市民が郷土の歴史や文化財に触れる機会を増やしていくことが、郷土愛の醸成にもつながる。源義高に関連した事業は、平成26年から義高の鯉のぼり、27年から義高ウォークが実施されており、今では5月の風物詩として定着し、市内外か



入間川を泳ぐ「義高の鯉のぼり」

ら多くの方が参加されている。

特に令和4年度は大河ドラマの影響で市民の関心も高まっていることから、博物館や図書館、中央公民館などで源義高に関連する講演会や展示会などを開催した。

また、毎年市民会館で上演される狂言「入間川」の公演前には中央公民館と市民団体の共催による事前学習会を開催しており、引き続き、市民団体との連携を図りつつ、郷土の歴史や文化財に関する普及啓発を進めていく。

◆室町時代、足利尊氏の四男基氏(もとうじ)は鎌倉公方として入間川殿と呼ばれていた

歴史的にも重要であると考えられる入間川御所は所在が未確定である。調査が必要では。

総務部長 狭山市駅西口地区再開発事業区域においては、遺構、遺物などが発見されていないことから、ここでは市史に記されている内容以上の物証などはないものと認識している。



一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。6月定例会では、14名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。

不登校児童・生徒の増加に歯止めを!

千葉 良秋 (自由民主党)



録画配信の
2次元コード

◆引きこもりには精神衛生の専門的支援が必要

「Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)」を実施しているとのことだが、やる気を見つけるための心理テスト・アンケートの結果をどのように活用し、指導に生かしているのか。

学校教育部長 Q-Uは、学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態などを質問紙によって測定するものであり、教員の日常観察や面談による児童生徒理解を補い、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用でき、いじめや不登校、学級の荒れなどの未然防止に役立てることができる。教員がQ-Uの結果を有効に生かすために、校内の活用研修や市教育委員会主催の研修の実施を行っている。

◆「学校生活充実支援委員会」の活動に期待

毎年の不登校の増加に歯止めをかけるには、不登校になってからの対策よりも不登校を出さない学校づくりに傾注するべきであり、精神保健福祉士や思春期外来などの心の専門家による事前対策の検討についての見解は。

学校教育部長 不登校の解消には、新たに不登校を出さない学校づくりが、不登校になってからの対策よりも重要であると考えている。外部の専門機関からの指導助言は有益であることを考慮し、学校や保護者に適切に情報提供を行い連携していく。



多胎児を育てる家庭に、寄り添った子育て支援を

綿貫 伸子 (公明党)



録画配信の
2次元コード

◆多胎児への支援

①多胎児特有の課題や支援ニーズをどのように把握しているか。

②家事や育児を支援する産前・産後ヘルプサービスについて、通常は4か月までのところ、多胎児家庭は1年間利用できるが、1時間700円の有料である。多胎児家庭に対し、経済的な負担を軽減することについての考えは。

③保育所等入所調整基準表において、多胎児のポイント加算を行うことについての考えは。

こども支援部長 ①多胎の妊娠は母体への負担も大きく、早産などのリスクも高い。また、出産後は、多胎児ならではの経済面も含めた育児負担や外出時の困難があり、育児経験を共感できる多胎児家庭が少ないことなどが課題。こうし

た多胎の特徴を踏まえた、妊娠期からの支援や孤立させないための支援などが必要である。

②産前・産後ヘルプサービスは、多胎家庭の利用を促すため、乳幼児健診などでさらなる周知を図り、多胎家庭の利用ニーズを見極めたうえで、利用料や利用期間なども検討していく。

③多胎児に限った加算はないが、兄弟姉妹の多い家庭や多胎児家庭にも配慮した点数配分となっている。しかし、多胎児を含む兄弟姉妹の同時入所は、希望する保育所などの入所状況によっては難しいものとなる場合があり、また多胎児は必然的に同時入所が求められることから、多胎児などの同時入所に配慮した入所調整基準表の見直しを検討していく。



空家等対策計画と空き家の活用

衣川 千代子 (日本共産党)



録画配信の
2次元コード

◆空家等の分布状況は

平成30年の狭山市の住宅数は70,440戸、賃貸用や売却用などを含めた空き家数は7,650戸となっている。空家等の地区ごとの分布状況は。

都市建設部長 令和元年9月末時点で、入間川地区86件、入曽地区106件、堀兼地区22件、奥富地区11件、柏原地区30件、水富地区63件、新狭山地区6件、狭山台地区4件、合計で328件となっており、入間川地区と入曽地区で全体の約6割を占めている。

◆空家等に対する対策

①住民からの空き家に関する相談と対応は。
②空家等の活用とは。また今後どのように進めていくのか。

都市建設部長 ①令和元年度に73件、2年度に97件、3年度に106件の相談があり、内容の多くは草木の繁茂や小動物の生息である。所有者自身の対応が難しい場合は、協定を締結した事業者を紹介している。また、売買、賃貸、相続、管理などの相談は、ワンストップ相談窓口を案内し、適切な管理や利活用などを促進している。

② 令和3年度に意向調査を実施した結果、空き家のうち約7割が旧耐震基準の建築のため利活用は困難と判断し、更地として新たな利活用につなげていく方向性とした。相談や管理などの支援制度を知らないとの回答が8割いたことから、ワンストップ相談窓口などの周知と更地利活用のための情報提供をしていく。

その他のテーマ▶高齢者の外出支援、市の取り組みは



ここに掲載していない一般質問の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧いただけません。ホームページをご覧にならない方には、FAXか郵送でお届けしますので、議会事務局にご連絡ください。04-2953-1111 内線3313